

港区立高松中学校
平成 29 年度 授業改善推進プラン

教育目標

個を生かし、豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育を推進する。

- 深く考え進んで学ぶ人
- 思いやりのある心豊かな人
- 健康でたくましく生きる人

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ☆ 「高松中生のあたりまえ」の行動化を教育活動の根幹とする。
- ☆ 創意工夫された授業を行い、授業で信頼関係を築く。
- ☆ 規律ある授業を行い、授業で生活指導の基盤を培う。

昨年度の成果と課題

＜成果＞

朝読書から三行日記という習慣が身に付き、落ち着いた学習環境が定着している。またアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善が見られるようになってきた。

＜課題＞

教師により、授業力の差があり、評価観も異なっているため、授業力向上のための研修や評価への共通認識をもっていく必要がある。また発達障害に関する理解を深めて、個に応じた対応の研修も必要である。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○始業前10分間の朝読書を継続し、落ち着いた気持ちで授業に臨む姿勢を養う。 ○「高松生活ノート」を定着させ、「三行日記」を有効に活用し、生徒理解やいじめ等の防止に役立て、生徒の学校生活の充実と向上を図る。	○区、全国及び都の学力調査から分析した生徒の実態把握及び生徒による授業評価の結果を受け、具体的な改善策を確実に実践し、よりよい授業の構築を目指す。 ○少人数授業では教師間連携を密にして計画を立てることで丁寧で充実した指導を目指す。	○日常の学習活動の中から、多くの評価資料を揃え、これらを基に評価を実施する。 ▲年度初めに、評価の方針を生徒・保護者に説明して理解を図り、生徒が次の学習活動に生かせる評価を推進する。	▲「アクティブ・ラーニングの活用とその効果」について研究し、積極的に言語活動を取り入れる授業を推進する。 ○特別支援教育の推進に力を入れ、生徒理解とその具体的な対応について全教師が共通理解・共通実践を行う。 ☆道徳の教科化に向けて授業形態・評価の研修を行う。	○学校日より、HP、学年日より、授業参観、学校公開、高松交流ガーデン活動等で、学校の様子を公開し、地域や家庭からの理解を図る。 ○PTA・地域・関係機関との連携により、薬物乱用防止教室、セーフティ教室、ケイタイ安全教室及び防災訓練等を行い、安全教育を推進する。

具体的な取組

・朝読書、「高松生活ノート」記入の時間は、担任・副担任が教室へ入り、各学級2人体制で全校共通の指導を行う。 ・学活・総合的な学習の時間の効果的な使い方を検討し、教科の授業時間確保に努める。 ・週ごとに実施回数調査を行い、実施率が低い教科は、土曜授業を生かして調整する。	・正答率が高い問題・低い問題について、その傾向を分析し、本校生徒の課題を各教科で検討し改善策を考える。 ・教師同士で授業を見学し合ったり、指導案検討をして授業力の向上を図る。 ・単元ごとに指導計画や小テストを確認しながら授業を行う。	・年度当初、『高松中の評価』についての共通理解を図る。また評価・評定の記載においては、複数の目で点検する評価システムを構築する。 ・4月の保護者会で、評価に関する説明と高等学校への推薦条件についての説明を丁寧に行う。 ・日常的に評価資料の作成に努め、適切な評価・評定を行う。	・新学習指導要領に関する自己研修を行い、主体的で対話的な、深い学びの実現ができるように、教科をこえて事例等の情報共有をする。かつ自分の授業に少しずつ工夫を取り入れ、不中断の授業改善を図る。 ・多様な意見が出るような話し合う価値のある発問を工夫し、評価までを見据えた道徳の授業を実践していく。	・学校公開を年3回実施し、地域・保護者の学校への理解を深めさせる。 ・防災訓練・セーフティ教室など、地域や警察・消防の方々とともに安全・防災教育及び健全育成を充実させる。 ・震災時の対応マニュアルを作り、地域と協力して臨める体制を作る。
--	--	---	--	--

☆→今年度からの取組 ○→定着・継続している取組 ▲→活性化が必要な取組